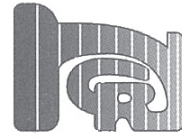


# フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



## すべての人が自らを律した 堅実な1年を願う

中部ろうさい病院 院長 加藤 文彦

新年あけましておめでとうございます。皆様  
が穏やかに新年を迎えら  
れたことを祈念いたします。

2013年1月から私が院長代理を務めて  
参りましたが、2015年1月より院長を仰  
せつかりました。今後とも宜しくお願い申  
上げます。

さて、昨年末には我が国の将来を託す衆  
議院選挙が行われました。選挙の争点は自  
民党・公明党政権の経済政策(アベノミク  
ス)の是非を問うというものでした。皆さ  
んどのように考えられ、清き一票を投じら  
れたのでしょうか?

現在「経済」という言葉は英語の  
「Economy」の訳語として使われています。  
しかし本来の意味は異なります。語源は「  
経世済民」という中国(隋)の古典に登場  
する語で、文字通りには、「世を経(おさ)め、  
民を済(すく)う」の意味です。すなわち、  
本来はより広く行政全般を意味する言葉で  
す。語源通りに「民を救う」ことを目的と  
した経済政策を行っていただきたいと思う  
のは私だけではないと考えます。

昨年亡くなられた高倉健さん主演の映画  
で「動乱」というのがあり、二・二六事件  
がテーマです。現実の二・二六事件を起こ  
した将校達が好んだ歌で「青年日本の歌」  
というのがあります。二番の歌詞に「権門  
(けんもん) 上(かみ)に傲(おご)れども、  
国を憂(うれ)う誠(まこと)なし。財閥(ざいばつ)富(とみ)を誇(こ)れども、社  
稷(しゃしよく)を思(おも)う心(こころ)なし。」とあり  
ます。「政治家(せいじか)や官僚(くわんりょう)は、上(かみ)にあつて権勢(けんせい)  
を誇(こ)っているが、国(くに)を憂(うれ)える誠意(まことい)を持って  
いない。財閥(ざいばつ)は富(とみ)を蓄え(たくわ)る力を誇(こ)示(ひか)している  
が、社会(しゃかい)や民(たみ)を想(おも)う心(こころ)を持っていない。」  
という意味です。三番では「ああ人栄(ひとさか)え国  
亡(くにな)ぶ。盲(くら)たる民(たみ)世(よ)に踊(おど)る。治乱(ちらん)興(た)つ亡(な)ぶ夢(ゆめ)に似  
て、世(よ)は一局(いちりやく)の碁(ご)なりけり。」とあります。  
「国(くに)は栄(さか)ながらも滅(め)びの道(みち)を辿(たど)っている。  
それを自覚(じかく)しない民(たみ)がまかり通(と)っている。  
まるで夢(ゆめ)のように勝敗(しょうぱい)や損得(そんとく)をして、世(よ)  
の中(なか)をゲーム(げーむ)のように考(かんが)えている。」という  
意味です。

政治家のみならず、私たち一般人もこの  
歌で批判されたような私利私欲に走らない  
ように自らを律して、日々の生活を送ること  
を祈念して新年のご挨拶といたします。

### 今月号のお知らせ

- ①すべての人が自らを律した堅実な1年を願う  
..... 中部ろうさい病院 院長 加藤 文彦
- ②障害者の退院後の一人暮らしについて  
..... 池戸 大耕
- ③第7回白鳥・市民健康セミナーを終えて  
..... リウマチ・膠原病科医師 野村 篤史

- ④11月14日は「世界糖尿病デー」  
..... 4階西病棟部長 鈴木 美代子
- ⑤著書が中国語に翻訳されました  
..... 心療内科部長 芦原 睦
- ⑤総合リハビリテーション賞を受賞
- ⑤編集後記
- ⑤当院の理念・当院の基本方針

## 私の車いす生活

～中央リハビリテーション部・社会生活講座より～

## 障害者の退院後の一人暮らしについて

池戸 大耕 42歳 頸髄損傷・四肢麻痺

## これまでの経緯

車の事故で頸椎の3-4番を脱臼骨折し、1年9か月ほど入院。退院後は家族の介護で生活していた。

実家が自営業で忙しいこともあり、退院3年後くらいからヘルパーや訪問看護の利用を開始。この頃から介護を家族に頼らず一人暮らしができないか考え始め、チラシを作って介護ボランティアを募ったり、AJU自立の家で自立生活体験室を体験した。

その後、24時間巡回型の介護サービスの利用を開始したり、安定した介護生活を送るため個人で有料介助者を募集。退院後10年ほどして、家族から離れて一人暮らしを始めた。



口にくわえた棒を使ってパソコンを操作します！

## 講演内容

## 1. 家族の介護による生活

自宅へ帰ってからは主に母親と姉達が日々の介護をやってきていました。排便や褥瘡予防なども介護者があってできることであり、一番大きな問題は介護を誰がやるのかという



ベッド⇄車いすの乗り移りにはリフターを使います

ことでした。母も歳を重ねれば体力も落ちてくるだろうし、姉達もそれぞれの生活があるわけでいつまでも家族に頼ってられないだろうという不安はいつもありました。また、家族だからこそ遠慮なく怒りをぶつける事も何度かあり自己嫌悪に陥る事も…。

それに実家は自営業なのでやってもらいたい事があっても待たされることが多く、ストレスを感じることもありました。こんな頃から家族に頼らず生活できないか考え始めるようになりました。

## 2. ボランティア、福祉サービスを利用した生活

市からヘルパーさんが来てくれる事を聞き、週2回、食事介助や掃除などをお願いしました。正直どんな人が来るのか不安もあり、他人がプライベートな場に入る事に抵抗もありましたが、少しずつ慣れていくしかありませんでした。

これを機に訪問看護も利用し始め、介護ボランティアもチラシを配って募りました。ボランティアについては地域の公共機関に相談に行き、チラシを貼らせてもらったり、福祉の専門学校で配らせてもらったりして何人か協力していた

だけの方が見つかりました。その後、AJU自立の家で自立体験室というのを1週間ほど体験させてもらい、少しずつ自信をつけていった事を覚えています。

それから、私の住んでいる地域で24時間巡回型のヘルパーサービスが始まったので、夜中や早朝の体位交換などをお願いし、家族の介護の割合も少し減っていきましたが、まだまだ不安定な介護体制でしたので昼間のヘルパーさんの利用回数を増やしてもらったり、アルバイトとして有料介護者を募ったりもしていきました。

そして、ほとんど介護を家族に頼らなくていい環境が整った頃に、実家から15分程離れたところの古い借家をインターネットで見つけて引越し、一人暮らしが始まりました。幸い大家さんが理解ある方でして、事情を話し、住む許可を頂けた事は非常に大きかったです。一人暮らしをして数年経ちますが、不安がないとは言えません。特に体調管理は気を使っています。体調を崩した時の1人で過ごす時間は味わいたくないものです。

また介護者が変われば新しい方に最初から介護を覚えてもらわなければならないですし、未熟さゆえに介護者との関係のもつれもありました。

まだまだ自身に課題もありますが、私の生活の一部が現在入院されている方やそのご家族の方の参考になれば幸いです。



福祉車両でお出かけ

\*\*\* 中央リハビリテーション部・社会生活講座とは \*\*\*

入院患者さん向けの生活支援応援会。社会復帰して活躍されている脊髄損傷者の方に、地域社会での生活について情報提供してもらおうピアサポートの場。患者さん・ご家族の元気力アップと悩み解決に役立つ講座となるよう活動しています。


 医師

## 第7回白鳥・市民健康セミナーを終えて

リウマチ・膠原病科医師 野村 篤史



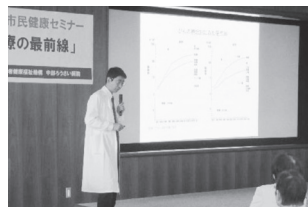
盛況となった会場

平成26年11月8日、当院2Fの講堂において、第7回白鳥・市民健康セミナーが開催されました。今回のテーマは「消化器がん」で、187名の方々の参加をいただきました。私の所属する診療科は基本的にはがんを扱わない科なので、がんについてのセミナーは新鮮でした。参加者の方々に混ざって勉強させていただきましたので、その報告をさせていただきます。

初めに加藤院長代理(現:院長)の挨拶がありました。冒頭はクイズで始まりました。「一番患者数の多いがんは?」と、「一番死亡者の多いがんは?」というもので、答えは患者数「①胃がん②大腸がん③肺がん」、死亡者は「①肺がん②胃がん③大腸がん」だそうです(私は間違えました)。肺がんと比べて“消化器がんは治療すれば治るかもしれないがんである”ということが強調されての幕開けでした。

講演はまず、外科の橋本先生から「大腸がんの診療の変遷について」のお話で、過去には手術といえば胃がんの手術が多

かったそうですが、現在は内視鏡手術の進歩により胃がんは内視鏡手術の比率が多くなっていること、欧米のライフスタイルの広がりにより大腸がんの増加もあり、外科手術では大腸がんの手術の比率が多くなっていること、手術も従来の開腹手術だけでなく内視鏡を使った低侵襲の手術が開発されていることな



橋本先生の講演

どの説明がありました。抗がん剤も進歩しており、現在は抗VEGF抗体製剤や、抗EGFR抗体製剤などのがん細胞の特定の分子を標的にした薬剤が登場していることなどの治療の進歩の話題がありました。それから驚いたのは、通常、がんが遠隔転移した場合、根治は望めないということが多いのですが、大腸がんは転移巣を手術で切除すると予後が良いそうで、化学療法で転移巣を縮小させて切除すると根治できるかもしれないということを学びました。

2つ目の演題は、消化器内科の宿輪先生からの「胃がんの診断から治療まで」というテーマのお話で、胃がん原因や

症状、診断や治療についてのわかりやすい説明でした。とくに興味を引いたのはピロリ菌の話と、実際の映像を見ながらの内視鏡手術の説明であったと思います。ピロリ菌の感染があつて胃炎があると、胃癌のリスクは5倍になるとの話ですが、参加者からは「ピロリ菌は除菌しすぎると逆に害になるとの話も聞きます」との声や「ピロリ菌は一回陰性ならもう調べなくてもよいか」などの質問があり、ピロリ菌の除菌により逆流性食道炎が増えるリスクもあるということ、一回の検査では偽陰性となる可能性もないわけではないとの説明がありました。

消化器がんに限らないことですが、がんの早期では症状がでないため、健診による早期発見、早期治療が重要であることを再認識し、新しい発見もあつて私は大満足してしまいました。活発な質疑応答もあり、参加者の方々にも満足していただけた講演会であったのではないかと思います。



宿輪先生の講演



## 看護師

# 11月14日は「世界糖尿病デー」

4階西病棟師長 鈴木 美代子

増え続ける糖尿病患者の抑制に向け設立されたのが「11月14日 世界糖尿病デー」です。この日は世界中の様々なモニュメントがブルーにライトアップされ、糖尿病に関心も持っていただけるよう、医療機関を中心にイベントが開催されます。今年度、愛知県では名古屋城・岡崎城が、東京ではスカイツリーがブルーにライトアップされました。

当院の取り組みとしては、糖尿病サポートチーム\*を中心に11月10日～11月14日まで「中部ろうさい病院糖尿病週間」としてのイベントを開催しました。正面玄関ホールにおいて、①糖尿病に関するポスター掲示、②医師・薬剤師による医療相談、③管理栄養士によるカロリーに関するクイズのスタンプラリー、④看護師による血糖・腹囲測定、⑤理学療法士による簡単な運動の紹介、などを行い50名ほどの方が参加されました。初めての取り組みであり、イベント内容・場所・アピール方法など課題も残されました。今年度の反省を踏まえ、来年度はより多くの方に糖尿病について関心を持っていただけるような企画を考えてい

きたいと思います。

糖尿病は予防が大切です。特定健康診査・特定保健指導(メタボ健診)が導入されてから糖尿病の予備軍は減少傾向です。イベントを通して「糖尿病予防」に関心をもっていたらと思います。



血糖測定の様子

### 〈糖尿病サポートチームの紹介〉

\*糖尿病サポートチームは、糖尿病の治療・教育・指導の充実と発展を目的に、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・臨床検査技師の多職種で結成されたチームです。

今年度は糖尿病週間のイベントやクッキング教室などを行いました。



糖尿病に関するポスター掲示



糖尿病サポートチームのメンバー

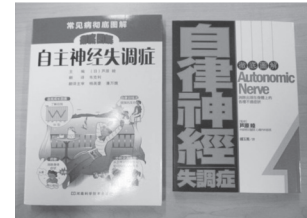
## 著書が中国語に翻訳されました

心療内科部長 芦原 睦

2000年に法研より出版しました「徹底図解 自律神経失調症」が、このたび翻訳期間4年をかけた河南科学技術出版社から「自主神経失調症」として発売されました。

右は2010年に台北の楓書坊から台湾で発売された同書です。同じ中国でも、大陸と台湾では使用する漢字が異なっているのは興味深いですね。

ある方から「きちんと翻訳されているのですか？」との質問を受けましたが、2冊とも自分の本ながら、漢字ばかりで全く読めませんので、その質問にはお答えできません。



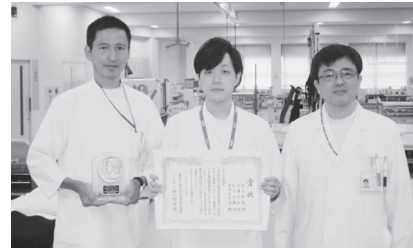
(左) 中国版、(右) 台湾版

## 総合リハビリテーション賞を受賞

中部労災病院中央リハビリテーション部 杉山 統哉 理学療法士が、平成26年9月24日(水)に東京都で開催された「総合リハビリテーション賞授賞式」において、本賞を受賞しました。

この賞は、医学書院が発行する専門誌「総合リハビリテーション」に1年の間に投稿された論文の中で最も優れた論文に贈呈されるもので、杉山氏と当院リハビリテーション科 田中 宏太佳 部長らがまとめた論文「急性期脳卒中患者の歩行自立度と社会的サポートの関連—リハビリテーション患

者データバンクの他施設登録データを用いた研究—」が評価され、授与されたものです。



左から、林中央リハビリテーション部長、杉山理学療法士、田中リハビリテーション科部長

## ～～ 編集後記 ～～

新年より院長代理の加藤文彦先生が、正式に院長に就任し、病院の体制がやっと落ち着きました。巻頭の院長のことばの通り、自らを律して新たな気持ちで診療にあたりたいと思います。1月はインフルエンザをはじめ多くの発熱患者さんが訪れ、病院は大忙しでした。立春を過ぎ、着実に訪れる春の足音に、期待と喜びを感じます。これから寒暖差が大きくなる季節、また花粉の飛散も昨年より多めとの予想、ご自愛お祈り申し上げます。(T.K)

## 当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

## 当院の基本方針

- ・ 医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・ 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・ 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・ 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・ 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供